

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2011年9月）

発表日：2011年11月7日（月）

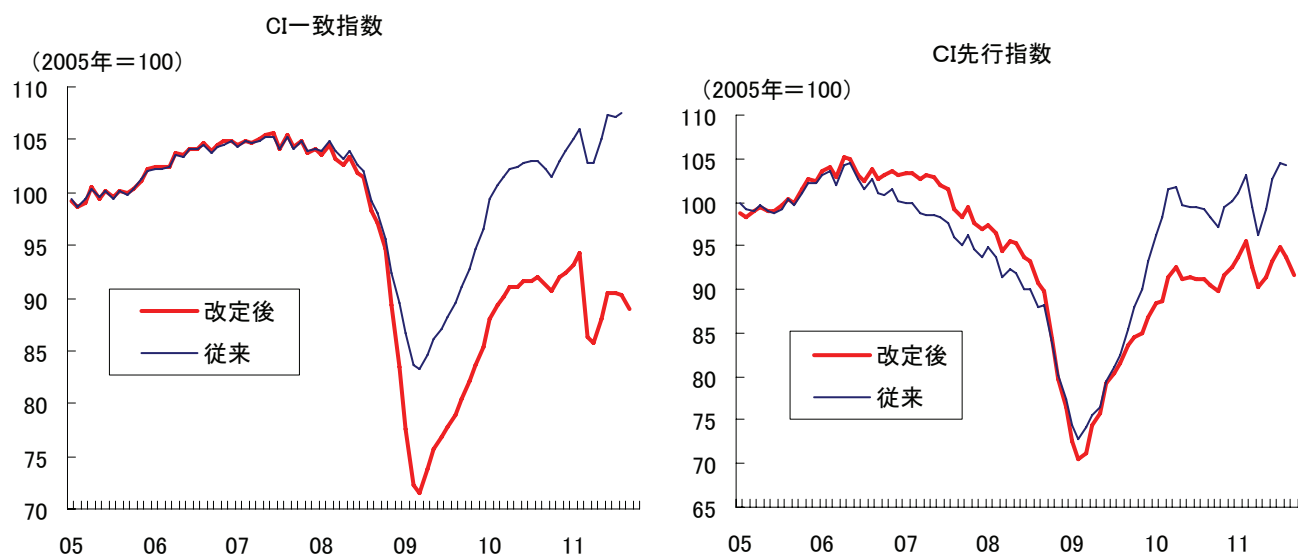
～C I一致指数は2ヶ月連続の低下。改善ペースの鈍化が明確に～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

本日内閣府から公表された9月のC I一致指数は前月差▲1.4ポイント（8月：同▲0.1ポイント）となり、2ヶ月連続で低下した。C I一致指数は5月に同+2.4ポイント、6月に同+2.3ポイントと急回復していたが、7月以降は改善ペースの鈍化が明確になっている。サプライチェーンの復旧に伴う生産の急回復局面がほぼ終了したことに加え、需要の伸びが限定的なものにとどまっていることが背景にあるとみられる。先行きについても、海外経済の減速、円高の持続などの悪材料の存在により、不透明感が非常に強い状況にある。なお、一致指数の内訳では、有効求人倍率や所定外労働時間がプラス寄与の一方、投資財出荷指数、中小企業出荷指数、鉱工業生産指数などが押し下げ要因になった。また、9月のC I先行指数も前月差▲2.2ポイントと、2ヶ月連続の低下となった。内訳では、日経商品指数（42種）や新設住宅着工床面積、最終需要財在庫率指数などの押し下げ寄与が大きい。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、2011年3月にそれまでの「改善」から「下方への局面変化」に下方修正された後、6月に「下げ止まり」に上方修正されているが、9月についても「下げ止まり」で現状維持となった。C I一致指数の3ヶ月移動平均の値は4ヶ月ぶりにマイナスに転じたが、「原則として3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が下降した場合」という「悪化」への下方修正基準を満たさないため、現状維持となっている。仮に今後C Iの低下が続いたとしても、基調判断の「悪化」への下方修正は、最短で11月分公表時ということになる。

なお、今回の公表分より、①「外れ値」処理方法の変更、②採用系列の改定などの作成方法変更が反映されている。特に影響が大きいのが①であり、この変更により、従来のC I水準の過大評価が是正され、より景気実態に近いものになったと考えられる。適切な改定として高く評価できるだろう（詳細は11月1日発行「景気動向指数（2011年9月）の予測」をご参照ください）。



（出所）内閣府「景気動向指数」